

令和4年度 第2回能勢町地域公共交通会議 議事録

開催日時	令和4年9月9日(金) 午前10時00分～午後0時30分
開催場所	淨るりシアター 小ホール
出席委員 (16名)	猪井 博登、葉 健人、酒井 敏一、中西 克之、野津 俊明、暮部 光昭、森下 保夫、 奥畑 司、横井 琴江、池田 和幸、山本 守、看舎 邦亮、川人 正秀、藤原 伸祐、 百々 孝之、寺内 啓二
欠席委員 (1名)	日田 守
傍聴者	3名
協議事項	(1) 乗合タクシー(実証運行)の運行状況及び停留所の追加(案)などについて (2) 路線バス(妙見口能勢線)の利用状況及び課題と見直しの方向性について (3) 交通空白地有償運送(NPO法人のせ田里伊能)の更新申請について
議事録	<p>■開会</p> <p>■資料確認、傍聴報告</p> <p>■会長挨拶</p> <p>会長) 7月から乗合タクシーの実証運行が開始されており、後ほど、事務局から運行実績の報告がある。本日は、皆様にご協議いただく案件を3件予定していることから、正午を目標にご議論いただきたい。特に3件目の案件については、今回、更新申請を行われる事業者が11時30分にお越しになられることから、できれば案件1及び2については、11時30分までに終わられるよう円滑な議事の進行にご協力をお願いしたい。</p> <p>それでは議事に入る前に、新しく委員に就任された方もおられるので、事務局から報告をお願いする。</p> <p>■委員の紹介及び委員の出席状況の報告</p> <p>■議題</p> <p>(1) <u>乗合タクシー(実証運行)の運行状況及び停留所の追加(案)などについて</u></p> <p>※事務局より資料1-1～1-5の説明</p> <p>副会長) ご質問、ご意見があればお受けする。</p> <p>委員) まず、今更かもしれないが、この会議では、女性の意見は反映されているのか。設置要綱の改正も含めて、女性の委員を何人か加えてはどうか。もう1点、先ほど聞き逃したが、乗合タクシーの8月の実績についてはいかがか。岐尼地区の実績を確認したい。8月の稼働日数も教えていただきたい。</p> <p>副会長) 婦人会等の組織に入ってください意図があるのかどうか。仕組みとしては、要綱を</p>

	改正する必要が生じると思われるが検討は可能であるのか。
事務局)	本会議への出席者については、各団体をお願いしている関係から、事務局でも決めきれないところはある。まずは、対象となる女性による団体があるかどうか、事務局で精査し、検討させていただく。8月の実績については担当から説明する。
事務局)	先ほど、8月の運行回数は37回と申し上げたが、内訳は①天王地区、岐尼地区の一部が6回、②久佐々地区の一部、田尻地区が31回運行している。乗車人数は合計47名のご利用と申し上げたが、内訳は①天王地区、岐尼地区の一部が10名、②久佐々地区の一部、田尻地区が37名である。
副会長)	他にあるか。
委員)	停留所を増やすことは賛成である。夏場は暑いので乗合タクシーの利用も増加したと思う。資料1-3の12ページで、「ジャパンや物産センターに行きたい」というのは、バス路線に重なるからかと思うが、土日も買物に行く際に利用したいという要望もある。来年の3月には、孫の保育所への送迎が終わるので、保有する車のうち1台を処分しようと思っている。いきなり移動手段がなくなるのも不安なので、今年4月から自転車を利用している。ただ、暑い日は、つい車を使ってしまう。乗合タクシーは、事前予約制なので急に利用したいとなった場合、対応はどのようにするのか。
事務局)	アンケートからも乗合タクシーの予約の在り方については、ご意見をいただいている。利用者からすると、すぐに利用したいという要望は承知している。一方で、予約については人員の配置、電話予約など、予約の在り方も含めて、受け入れ体制の整備も併せて検討していくべきであると考えている。
副会長)	予約受付の在り方については、運行事業者である日の丸ハイヤーと事務局で調整いただいて、可能かどうか検討いただきたい。
委員)	7～8月の実績について、8月の①天王地区、岐尼地区の一部の運行回数は6回ということだが、この受け取り方はどう考えておられるか。岐尼地区は、複数世代の世帯が多く、家庭内で対応されている世帯が多いと考える。路線バス(阪急バス)の路線から外れている地域なので、バス利用を前提にしていないということもある。事務局としてはどう分析されているのか。新聞折込などの広報についても考えていただきたい。
副会長)	私、個人の意見で申し上げさせていただくと、思ったより少ない印象である。もともと、路線バスがない地区では、既に何らかの移動手段を持っておられる。乗合タクシーを利用させていただくまでには、時間がかかると考える。加えて、最初は慣れていないので、利用が少ないのではないかと思う。周知については、広報の中で特

	<p>集を組んで掲載していただき、がんばっておられると思う。また、説明会もかなり丁寧を開催をしていただいている。個人的には、もう少し状況を見るべきと考える。事務局的にはどう捉えておられるか。</p>
委員)	<p>事務局の回答前に、町内における新型コロナウイルス感染状況についてお伝えしたい。私共どもは、福祉部局で新型コロナウイルス感染症拡大に対する案件についても所管している。町内における新型コロナウイルス感染状況について、資料と照らし合わせて見ていた。6月は21人/月が新型コロナウイルス感染症の陽性者となった。7月は238人/月、8月は412人/月であり、8月の陽性者は6月と比べて20倍となっている。第7波の新型コロナウイルス感染拡大の影響は大きかった。利用者アンケート結果においても、70歳以上であるハイリスクの方の利用が多いということがわかる。コロナの影響もあったのではと思うが、どう評価しているか事務局に確認したい。</p>
事務局)	<p>先ほど、副会長がおっしゃったように、運行を開始して日数が経過していないことから、自家用車で移動される方も多いと認識している。現状を踏まえて広報をしているが、例えば自家用車を利用しての方が乗合タクシーに変えるということは、「行動」を変えるということであり、乗り方も含めて広報していきたい。新型コロナウイルス感染拡大との関連性については、分析はできていないが、影響はあったかもしれない。</p>
副会長)	<p>乗合タクシーの利用が8月は増加しているので、引き続き利用状況を見ていくことが重要である。広報については、問題意識を持って進めていただきたい。停留所の増設については、既存の停留所を考慮しながら、医療機関をご提案いただいたということで検討している。アンケートや説明会でのご意見を含めて、医療機関の最寄り停留所は必要である。福祉部長である委員、ご意見があればお願いしたい。</p>
委員)	<p>4月に医療機関の先生方と話はさせていただいた。そのときに、乗合タクシーの運行開始について、パンフレット（能勢町乗合タクシーご利用ガイド）を用いて、ご案内させていただいた。交通手段がないので通院ができない、買い物や通院の日常生活を支えるということであれば、町内の医療機関は目的地に入れるべきではないかというご意見があった。現在、町内の医療機関では、交通手段がない患者への対応として、送迎車を出しておられるが、経費や人員は医療機関が負担されている状況であり、医師会から町に対して、医療機関に行く手段の確保に対して要望を出されていたということもある。全ての負担が解消するものではないが、能勢町の人口構成を見ると高齢者割合が42%という状況もあり、高齢者が医療機関に通える交通手段が非常に大事であり、非常にありがたい提案である。</p>
副会長)	<p>停留所の増設は、安全確認をした上で進めていただきたい。</p>

委員)	乗合タクシーの停留所の増設と関連するが、東地域の交通空白地域にお住いの方と話をする機会があった。なぜ、東地域の野間大原等の交通空白地は、乗合タクシーの対象地域とならないのかなどのご意見を持っていらっしゃる。また、スクールバスの活用についても、6月に開催した住民向け説明会で話が出ていた。住民としては、なぜ、利用できないのかという意見があるということをつけ加えさせていただく。
副会長)	東地域の件は、議題2で議論していただきたい。スクールバスの件についてはいかがか。
委員)	スクールバスの活用については、以前から度々言ってきた。町が考えるべき問題である。
会長)	スクールバスの活用については、この協議会でも議論させていただき、昨年度5回目の会議で、一旦総括していると町としては認識している。スクールバスの活用がなぜできないかは、広報（広報のせ令和4年9月号（No.711））にも掲載しているので、引き続き周知に努めていきたい。
副会長)	スクールバスを活用したいのは分かるが、少しの運行でも難しいことは、以前の会議でも議論した。学校の校時（時間割）や行事に合わせて運行するものであるため、帰りの時間を合わせるのが難しい。一概にあきらめるというわけではないが、非常に難しいところである。
委員)	スクールバスが出る時間は、事前に児童に学校から通知される。それを広報に掲載すれば良いだけのことであり、町がどういう姿勢で臨むかである。住民の要望は強い。阪急バスにつなげる努力を町がするべきではないか。
副会長)	学校側での議論もあり、またスクールバスに外部の方が児童や生徒と一緒に乗ることに難色を示す保護者の意見もある。時間をかけて説得しなければならない。活用できるように引き続き検討するべきだとは思いますが、総務部だけで返事ができる問題ではない。一概に否定しているわけではない。 続いて、指標について、皆さんのご意見を聞きたい。個人的には、指標の項目がかなり多いかと思う。
委員)	こちらにお示しいただいている指標について異論はない。今回ご提示いただいた指標は、効率・経済性に関わる指標と捉えているが、私が重要だと思うのは町民の皆さんに現状をお伝えすることである。今回の会議で報告された実績に関しても、現状を町民に見ていただき、それに対してさらに乗らなくては維持できなくなってしまうということが伝わる環境づくりは必要だと思う。したがって、評価項目自体はこれで良いと考えるが、できれば、この指標をいろんなところで、目に触れるような形で告知できるようにすべきと考える。乗合タクシーを利用している方や残したいと思う

	<p>方へのモチベーションになるようにすることが重要である。この指標の達成度は、どのくらいの頻度で更新していく予定であるのか。</p> <p>もう1点、まだ運行開始2か月ということ、加えて新型コロナウイルス感染症拡大の状況もあり、すぐに数値が伸びるものではないと思うが、一方で運行地域の差は大きい結果が出ている。この指標を運行地域ごとに見るのか、町全体の数値として見るのか。事務局のお考えをお聞きしたい。</p>
副会長)	<p>広報誌（広報のせ）に毎月掲載するのはなかなか難しいので、指標の達成状況を掲載するのはweb上かと思う。事務局いかがか。</p>
事務局)	<p>公表については副会長のおっしゃったとおり、web上での公表と考える。書面では公共交通会議等の場面を想定している。指標の達成状況については、地域ごとのものを公表していきたい。</p>
副会長)	<p>地域ごとの公表で異論はないか。</p> <p style="text-align: center;">(異議なし)</p>
副会長)	<p>web上での公表も良いやり方があればと考える。</p>
葉委員)	<p>あと、乗合タクシーの車内掲示はいかがか。</p>
事務局)	<p>対応可能である。</p>
副会長)	<p>他に何かあるか。</p>
委員)	<p>自治体が公共交通機関を保障すると考えると、収支率も指標として取らなくてはならない。しかし、収支率の達成状況だけで、乗合タクシーを廃止するといった考えにならないようにしていただきたい。収支率による評価は慎重にやっていただきたい。</p>
副会長)	<p>資料1-5、2ページに記載しているが、ご指摘のとおり運行の継続や運行取りやめだけの判断ではなく、基本的にやり方を変えるという考え方で、運行内容の見直しに活用する指標とする。本格運行に移行する際には、皆さんにご議論していただくことになる。セーフティネットの役割を担うものとなるので、本格運行になるとやめるにやめられなくなる。</p> <p>その他、何かご意見はいかがか。事務局に質問だが、指標の各項目は、運行地区ごとにとることは可能か。</p>
事務局)	<p>指標の項目についての実績は、それぞれ合計と各ルートの回数が出ているので提示は可能と考える。ただし、収支率については、運行地区ごとでの切り分けは難し</p>

	い。
副会長)	収支率は確かに全体の契約になっているので難しいと思う。事務局的には可能ということでしょうか。
事務局)	5項目のうち、収支率を除く4項目は運行エリアごとで提示させていただきたい。
副会長)	皆様、異議はないか。
	(異議なし)
副会長)	それでは5項目で公表させていただく。
	<b>(2) <u>路線バス(妙見口能勢線)の利用状況及び課題と見直しの方向性について</u></b>
	※事務局より資料2-1, 2-2の説明
副会長)	ご質問、ご意見があればお受けする。
委員)	以前、阪急バスからは車両を小型化しても、経費の大半が人件費であるため、経営的な効果がないということであった。仮に案3や案4にすると、乗合タクシーで東地域から妙見口駅まで乗り入れすることができるのか。妙見口能勢線の場合、能勢町を含め4市町(他に、豊能町、箕面市、兵庫県川西市)をまたいで運行しているので、能勢町の乗合タクシーが他の市町村に乗り入れて営業することはできないと聞いたことがあり、それが可能なのか確認したい。最終的に、東地域の方の意向も踏まえて、慎重にやっていただきたい。
副会長)	車両を小さくすることで、油脂燃料費はバスに比べて若干下がるが、運行経費の約6~7割を占める人件費は変わらないので、運行経費は大きく変わらないと思う。阪急バスにお伺いするが、案2は無理ということでしょうか。
委員)	経費の大半は人件費が占めているので、おっしゃるとおりである。
副会長)	ワンボックスカーを阪急バスに運行してもらうのは困難という意味である。
委員)	以前に、14人乗りのハイエースタイプを一時的に運用したこともあるが、現在は運用していないし、車両も保有していない。
副会長)	案2については無理ということなので、案3まで踏みこまないワンボックスによる運行はできないということである。あと、案3による他の市町を結ぶ乗合タクシ

	一の運行は、法的には可能なのか。
委員)	能勢町と他の市町への乗り入れは、制度的には可能である。ただ、能勢町の地域公共交通会議で了承をいただくのと、妙見口能勢線の沿線地域の市町（豊能町、箕面市、兵庫県川西市）の地域公共交通会議等での合意が必要である。
副会長)	他に確認があれば、委員からコメントをいただきたい。
委員)	先ほどの利用状況において、交通系 IC カードの利用実績は、利用率が 80%と説明いただいた。加えてコロナ禍というところで、2~6月までの5か月間、コロナ前と比べると、やはり収入が14%減となっている。今後、コロナが終息し、14%が影響を受けている数字と仮定すると、交通系 IC カード以外の利用となる現金利用の方が20%おられるので、現状から約3割増しの数字になると考える。資料2-1の4ページにある対象期間の1日当たり乗車人員が35人くらいだが、3割増しすると46人となる。1便当たり利用者4.4人を3割増しすることで5.7人となる。1便（1循環）で約1時間弱の運行時間がかかっている状況で、1便当たり6人のご利用がない状況では、バスによる運行は効率が悪い。資料2-2の5ページに維持費補助金額は1300万弱ということだが、収支率で見ると20%強である。100円の経費をかけても、収入は20円程度という状況である。1便当たりの乗車人員が5~6人で収支率が20%では、バスの分担領域はないと思われる。収支を見ても、民間では到底やっていける状況ではないが、地域の方の足の確保は必要だということで、資料2-2の9ページで案を出していただいているが、この案の中により良い方法があるのか、これ以外にもっと良い方法があるのかということも含めて、バス事業者としてよく考えて、事務局と相談できたらと考える。
副会長)	次回、12月の会議ではもっと踏み込んだ所を議論したい。この場でご意見をいただきたい。
委員)	以前に2回提案をしたが、西能勢の場合は西能勢財産区から能勢町に対して3億円を基金として寄付している。西能勢財産区としては、意見書を付けて西能勢住民の福祉に役立つよう付帯決議しているはずである。私自身、当時の財産区の議員だった。公共交通機関をどう維持するか、住民全体で支えていくことが重要である。現在、サブスクリプションというビジネスモデルがある。例えば、能勢町が主体になって、公共交通のサブスクリプションを導入する。会員を2万円で募集し、1,000人の応募があれば2,000万円の収入がある。その2,000万円をあらかじめ財産区からの基金を活用して予算として投入し、人が増えるたびに基金に戻していくという仕組みを提案している。サブスクリプションを導入したら、会員になった人が得をするという仕組みとして、公共交通を維持する。私は今年、阪急バスを利用したのは1回である。昨年も1回。なぜかということ、自家用車があるから。自家用車がある限り、自家用車を利用し続けることになる。トータルで考えて、システムを構築

<p>副会長)</p>	<p>していただきたい。能勢町の公共交通として、能勢町なら阪急バスをどう守っていくか、住民全体の議論とするべきである。</p> <p>乗合タクシーの実証実験を始めて、私個人として思うことは、能勢高校（大阪府立豊中高校能勢分校）の e-bike プロジェクトを見ていて、自転車を活用することは面白いと思った。自転車は本来、歩道を走行できないのだが、自転車通行可の区間では歩道の通行も可能である。特に妙見口駅付近の歩道を見ると、かなり雑草が生えていて、自転車が歩道を走れない状況となっている。住民の足として、バスは残さなくてはならないが、それが非効率になってはならない。他の市町村では、草抜きまで手が回らない状況である。何が大事で、何をしていくかは重要な議論であり、悩ましいところである。ご指摘のとおり、本来、これは町民の皆さんで議論すべきことだが、実際には難しいところもあるので、こうして代表の方にお越しいただいて、色々な案をいただいて議論をして、それを住民に提示して考えていただくというプロセスになる。能勢町内の道路状況は、あまり良くないのでかなり手を入れなければならない箇所もあり、公共交通を維持することも大事だが、町の限られた予算内で何に使うかは、非常に大事なことである。サブスクリプションも面白いアイデアだと思う。だが、お金が集まらなくて実際には動けなかったということになれば困るので、先ほど言ったように最低限、必ずやるべき項目を考えなくてはならない。そのポリシーがあった上での代替案を提示していきながら、選んでいくべきである。そういう意味では、この会で皆さんにご議論いただいて、場合によっては、路線の廃止という重い決断を踏んでいただくことになるが、真摯なご意見をいただきたい。</p>
<p>委員)</p>	<p>現状、妙見口能勢線のバスに乗っておられる方は、数人である。0人のときもある。普段、バスに乗っておられる方は同じ方である。用途は町外の病院などへの通院で、そのとき家族がいないからということで利用されている。そういう方は、これからも利用するだろうが、今まで利用されていた方で、入院等の理由で乗らなくなった方もいる。特に、令和に入ってから、妙見口能勢線の利用者が少なくなっている。能勢町の高齢者人口割合は42%ということだが、東郷地区はもっと高い。その中で、野間中地区や地黄地区は更に高齢化率が高くなっている。そんな状況でバスがなくなったら、病院へ行く人はどうすれば良いか。去年、とても負担がかかっていると町から説明を受けたが、急激な人口減の中、どうしたら良いかわからない状況である。いずれにしても、移動手段のことよりも自分たちの生活を維持できるのかというほどの高齢化率である。正直、ここで色々出されている話を地域の方に話すのが酷だと感じる。</p>
<p>副会長)</p>	<p>最低限、地域の方々の生活を維持できるように、セーフティネットとして買い物や病院に行ける足は確保しなければならない。とても心苦しいことである。</p> <p>他、いかがか。それでは先に議題3に進ませていただきたい。後ほど、議題2に戻りたい。</p>



(3) 交通空白地有償運送（NPO 法人のせ田里伊能）の更新申請について

※事務局より資料 3-1 の説明

副会長) 要綱の変更について、よろしいか。

(異議なし)

副会長) それでは要綱の変更をさせていただく。続いて、交通空白地有償運送の更新について、説明いただく。

※事務局より資料 3-2 の説明

副会長) ご質問、ご意見があればお受けする。

委員) 現在、コロナ禍で運行されていないということだが、これまでの議論にもあったとおり、地域交通資源をできるだけ活用していくという視点では、引き続きのせ田里伊能さんに交通空白地有償運送をお引き受けいただくということは、非常に重要なことであると思う。運送対価についても、従前のものと引継ぎという形なので、私個人としては問題ない考える。

副会長) 皆さんからご質問、ご意見はあるか。交通空白地有償運送（NPO 法人のせ田里伊能）の対価を含めて更新申請に対して同意をいただけるか。

(異議なし)

副会長) 同意をいただけたということで、更新申請について協議が調ったことから、手続きを進めていただきたい。

先ほどの議題 2 に戻らせていただく。

(2) 路線バス（妙見口能勢線）の利用状況及び課題と見直しの方向性についての続き

副会長) 他、いかがか。

委員) 公共交通機関として、能勢町では阪急バスを位置付けている。私が能勢に来たときと状況が違っているが、西能勢線は、以前は 1 時間に 1 本運行していたが、ほとんどの人が山下駅まで自家用車で送迎している。阪急バスでは、hanica はんきゅうグランドバス（高齢者専用定期券）がある中で、利用者をどう増やしていくかで考えないといけない。先ほど、西能勢財産区の基金を活用したサブスクリプションのよ

	うな仕組みが町を挙げてできないかと提案した。町が音頭を取らないとできないことである。サブスクリプションの会員に対して、hanica はんきゅうグランドパス（高齢者専用定期券）若しくは定期代の補助など、アイデアを出すことはできる。基金をどう活用するか、考えて欲しい。
副会長)	12月までに可能であれば、先ほどの財産区等々の意向の把握を行ってほしい。阪急バスの残し方についても検討をいただければと思う。
委員)	委員から話があったように、私も和田地区（倉垣）の方と話をさせていただいたときに、空き家が多く、集落として維持できるかどうか、数年間で微妙な時期に来ているとおっしゃっていた。実際、バスがないので余計に高齢者は離れざるを得ないなど、負のスパイラルが起きやすい。町として、交通空白地に対しても責任を持ち、何らかの形で移動手段を確保していく姿勢が重要である。阪急バスの利用者自体が減少しているのに、乗合タクシーが交通空白地域にエリアを拡大したとしても大きな影響がないように思われる。エリアを拡大して実証運転の期間内に試験的に走行させることも必要ではないか。
副会長)	他いかがか。
委員)	地域の状況は変わってきているので、臨機応変に対応していく必要がある。バスが頼りである方は少なからずいらっしゃる。選択肢がない方のことを考えながら協議していくことが大事である。
委員)	難しい問題である一方で、現在の東地域の方も自由に動ける方法は必要である。議論を進める上で、現在、能勢町は西地域と東地域で生活圏が二分されている。西地域は山下駅、東地域は妙見口駅へ行く。町外の鉄道駅を結ぶ基幹軸が二つある状態である。その中で、東地域の基幹軸をどうするかは、地域の存続に関わることである。客観的な視点で言うと、人が外に出ていくように、能勢町内でモノ・ヒト・経済を循環させることも持続する上で重要である。そう考えたときに、現状のように何らかの方法で、東地域から妙見口駅を結ぶ基幹交通である妙見口能勢線を維持するのか、あるいは全て西地域にお越しいただいてから、西地域と山下駅を結ぶ西能勢線を更に強固な基幹軸にすることを前提条件として、二つの考え方がある。それは12月の段階で重要な視点かと思う。いずれにせよ、東地域から移動手段をなくすということではなく、町全体で見たときにどちらに基軸を置くかという話なので、整理した上で、策を講じて議論の切り口とすることが重要である。
委員)	この会議が立ち上がった直後に取られたアンケートを見直していたが、バスを利用されている方の満足度が低いというところでは、「運行本数が少ない」、「乗りたい時間に運行していない」、「運賃が高い」が理由であった。バスを利用しない方がなぜ乗っていないかというところ、「運行本数が少ない」、「バス停が遠い」などが理由と

	<p>なっている。加えて、「運賃が高い」ので利用回数が少ないという結果だった。「バス停が遠い」、あるいは「運行本数が少ない」ことについては、乗合タクシーがだいたい補填できるところもある。運賃については、非常にデリケートな話であるが、例えば、町で運賃助成制度を作られる等すれば、利用活性化に繋がりが、利用者が増えれば、運行本数が増やせるかもしれない。アンケート結果を見ながら、施策の考え方も切り口の一つにしてはどうか。</p>
委員)	<p>基本的に、乗合タクシーの利用人数が7月と比べて、8月は上がっているが、これからは広報をして、利用者を増やさないと継続はできない。日の丸ハイヤーでも広報はするが、今日来ている委員の皆さんにも、口コミで広げていただいて、利用していただかないと残らないと伝えていただきたい。その他の案件については、協力できるところはしていきたい。</p>
委員)	<p>私どもの施設は倉垣にあり、議題に挙がっている地域にある。障がい施設等連絡会としてではなく、私が所属している事業所としての意見になる。新卒の採用を行っているが、この数年、交通の便が悪いということで、募集をかけてもなかなか来ない状況にあり、雇用にも影響が出始めている。入居されている方は、定員50床で、50名の方が365日生活する施設であるが、交通の便が悪いために、外出や買物も施設の車両を稼働しないと動けない状況が続いている。コンビニエンスストアやショッピングセンターに行きたいときに、バスがなく、施設の車両も他の予定で使用していて動かせないとすると、外出がどんどん減ってくる。地域に開かれた事業所とうたってはいるが、施設から出られない状況が、ここ数年拡大している印象である。他の施設等連絡会に参加されている事業者さんも、交通の不便な場所に立地していることが多いとは思いますが、障がい者や高齢の方が動きにくい状況の中で、妙見口能勢線が廃止になってしまうと厳しい。人事を担当している職員からも、雇用に影響が出ていると伝えて欲しいという意見があった。今後、福祉施設として、地域に根差して運営していく中で、車ありきの立地も仕方がないところはあるが、別の交通として、路線バスや乗合タクシー等が拡大していけば、私たちの施設利用者だけではなく、他の事業所の労働者も使いやすいのではないかと。</p>
委員)	<p>町に質問だが、阪急バスの路線の見直しについて、住民への説明も踏まえて行うということだが、あと3か月くらいしかない。時間の問題と、どの程度の会議の回数で、説明会を開催するのか。意見として、今の乗合タクシーは二つのエリアで走行しているが、場合によっては、一つのエリアに集約して、毎日運行するほうが良いのではないかと意見があるが、いかがか。</p>
副会長)	<p>1点目については資料1-1にスケジュールが記載されている。案を12月までにとお話ししたが、見直しの方向性が出てくるのが12月ということである。検討していくのが来年度にかけて検討したいということで、大きく北摂で変わるのが、令和6年(2024年)3月に北大阪急行が現在の千里中央駅(豊中市新千里東町)から箕面萱</p>

	<p>野駅（箕面市西宿）まで延伸することで、地域の交通状況が変わるということもある。北大阪急行の延伸に合わせて、阪急バスが箕面市を含む隣接市町の運行路線を大きく運行を変えるのが令和6年（2024年）3月であると思うので、そこに合わせるのが一つ具体的なところである。阪急バスからも説明をいただいたように、妙見口能勢線の収支率が20%しかない。阪急バスの路線としては維持するのが難しい。町として補てんしていかなくてはならない状況である。また、平成15年の京都交通の撤退で、この路線に関しては、赤字補てんを行っている路線である。町民の皆さんがどうするかにかかっているという状況であるというところで、難しい決断をしなければならない。令和5年にかけて議論をしていきたい。もう1点の乗合タクシーの運行エリアを一つにまとめて、毎日運行するということについて、いかがか。</p>
事務局)	<p>実証実験の段階で区域を1地区にするのは難しい。本格運行を決める際に、路線の見直しを踏まえて1地区にすることも当然ありえるが、現在1車両で運行しているので、車両を増やしていかなくてはならないといった経費の負担も増えてくるので、その辺りも踏まえて考えていきたい。</p>
副会長)	<p>予定の時間が過ぎているので何もなければ次に進みたい。</p>
	<p>・<u>その他</u></p>
事務局)	<p>今回の会議は12月開催ということで、日程調整をさせていただく。</p>
副会長)	<p>他に何かあるか。</p>
委員)	<p>乗合タクシーの停留所の増設について、医療機関を含めて提案していただいたが、柏木歯科医院（下田）が抜けている。いわさき歯科（大里）も西能勢線の沿線に立地しているので、柏木歯科医院も検討いただきたい。</p>
副会長)	<p>事務局、柏木歯科医院が抜けていたのは何か意図があったのか。</p>
事務局)	<p>今回、町内の医療機関を追加したが、柏木歯科医院はジャパン能勢店が入っている同じビルで、西能勢線の沿線地域と重なっている地域である。いわさき歯科は乗合タクシーを運行している森上と能勢町役場前間で、比較的追加しやすかった。柏木歯科医院については、路線バスが運行しているエリアということで追加は見送らせていただいている状況である。</p>
委員)	<p>町内の医療機関であれば、入れるべきではないのか。</p>
副会長)	<p>むしろ、阪急バスの路線に重なることを危惧されて外されているという意味では、今回の追加のところではなぜ外したのか説明をしないとイケないのではという指摘と、医療機関であれば入れるべきという指摘かと思う。</p>

委員)	利用者のことも考えていただきたい。
副会長)	さらに、事務局で追加するのかが検討いただきたい。影響する阪急バスともご協議いただき、追加できるようであれば追加いただきたい。書面で提示いただくか、12月の次回会議時にご提示いただく形で検討いただきたい。進行をお返しする。
会長)	<p>・<u>閉会</u></p> <p>次回の協議会に向けて宿題をいただいたので、事務局と協議をして取りまとめた。それでは、本日の能勢町地域公共交通会議は、これをもって終了させていただきます。</p>